

## ティーチング・ステートメント

所属 経営情報学科  
名前 松嶋 智子  
作成日 2022.03.08

### 【責任】

経営情報学科に所属する教員として、情報分野の教育と研究活動を行っている。主たる教育活動は、「情報社会の倫理（情報倫理）」、「情報セキュリティ」、「データサイエンス入門」、「情報システムとプログラミング3, 4」などの講義科目の担当、ゼミナールにおける学生の研究支援、アカデミックアドバイザーとしての学生支援である。

### 【理念】

学生には、自分自身の強み（得意分野、特徴、特技）に気付き、それを活かせるような人になってもらいたい。本人が好きなことであれば、たとえ苦しいことがあっても、それを楽しみながら挑戦し続けることができるのではないだろうか。将来、仕事や人生において、各自の強みを活かして、その人らしく自信を持って生きていけるようになってほしい。

どの学生にも強みがあると思うが、大学入学時にはそれが何なのかまだ分からない人も多いと思う。その人の強みは、専門的知識や技術的スキルかもしれないし、協調性やリーダーシップなどの内面的なものかもしれない。私は、教育活動を通して、学生たちが大学生活の中で自分自身の強みを発見し、周りの学生や教員と関わりながらそれを伸ばし、自信を持って社会に出ていけるようにサポートしたいと考えている。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「主体的に学ぶことができる人材を育てる」、「自分で考えて行動できる人材を育てる」、「得意分野を見つけて伸ばす機会を作る」という三つの方針で教育活動を行っている。

#### ①主体的に学ぶことができる人材を育てる

どのような分野でも、専門性を高めるためには、他者から教えてもらうだけでなく、自ら主体的に学ぶことが必要になる。特に、情報分野は技術の進展が速いため、常に最新の動向を調べる必要がある。

授業では、まず正しい基礎知識を習得してもらうために、分かりやすく正確な教材を作成し、トピックスや事例を示しながら授業を行う。基礎知識の定着を図るため、単元ごとの確認テストを実施する。さらに、学生が自分で新しい情報や詳細な情報を収集できるように、具体的な調べ方を指導する。

例えば、もし授業で情報セキュリティに興味を持ったら、社会で実際に生じたセキュリティ関連のインシデントを自分で調べ、その原因を考えてみてほしい。担当する授業では、それができるように導きたいと考えている。

#### ②自分で考えて行動できる人材を育てる

何かの問題に向き合ったとき、その問題を整理して本質を捉え、問題の解決策を導く力が要求される。ゼミナールや演習では、論理的思考と柔軟な発想で、学生が自らアイデアや解決策を考えるように導く。

ゼミナールでは答えや解決法が一つではない課題に対して、それぞれが独自の考えを発表することで、自分以外のさまざまな考え方があることを認識してもらう。また、周りの人（学生や教員）の考え方を互いに認め、議論したり協働したりすることで、より良い成果が得られることを体験してもらう。教員自身も学生と同じ姿勢で取り組み、良いロールモデルとなれるように心掛ける。

例えば、IT サービスなどについて、それが周りの人や社会にどのような影響を与えてい

るかを想像し、情報セキュリティや情報倫理など多角的な観点から、自分で考えられるようになってほしい。

### ③得意分野を見つけて伸ばす機会を作る

大学で学生がさまざまな科目を履修することは、興味のある分野や得意分野を見つけ出すことにつながる。また、授業だけでなく、学内外の活動に参加してさまざまな経験をすることは、自分の長所や強みを見つけることにつながる。将来、社会人となったときに自分の軸足となるような得意分野や長所を学生時代に見つけてもらいたい。

私は、授業においては、各学生が興味を持ち主体的に学びたいと思えるような授業にすることを目指している。授業以外では、アカデミックアドバイザーとして普段から学生を良く見て各学生の長所や特徴を知ることが心掛け、いろいろな活動に挑戦できるようにサポートしたいと考えている。

### 【成果・評価】

- ・講義科目（情報セキュリティ、情報社会の倫理、データサイエンス入門）では、分かりやすい授業を心掛け、ほぼ毎回の授業後に確認テストを実施した。
- ・授業評価アンケートの自由記述欄に「身近な例や実際の問題、動画による学習によって興味を持って授業を受けることができた」、「この授業で学んだことは必ず役に立つと思った」、「いろんな知識を学べて凄く楽しかった」、「毎回の課題も復習になる。良い問題が多い点も良かった」など肯定的なコメントをもらうことができた。

### 【目標】

- ・担当科目に関連する学会への参加などにより知識を広げ、授業に反映させる。
- ・自分自身も学ぶ姿勢を常に持ち、学生のロールモデルになる。
- ・自身の研究分野をより深く探求し継続的に研究成果を発表する。